６　音楽

(1)　これまでの課題

ア　平成 22 年度

・１学年　歌唱と器楽のどちらか一方を重点的に扱うと、他方を扱えなくなり、継続的な学習を中断する時期が生じる。その期間が長くならないようにするための工夫が課題である。

・２学年　箏の学習に際して、箏のセット、授業前の準備、授業内の片付け等、効率的に行う工夫が必要である。

・３学年　アルトリコーダーの継続的な小テストは、完全習得を目指し取り組む課題として効果があるが、時間内に終了できない生徒への指導をどう行うかが課題である。

イ　平成 23 年度

・全学年　①歌唱と器楽のどちらか一方を重点的に扱うと、他方の継続的な学習を中断せざるをえない時期が生じる。その期間が長くならないようにするための工夫が課題である。
②アルトリコーダーの継続的な小テストは、完全習得を目指し取り組む課題として効果があるが、時間内に終了できない生徒への指導をどう行うかが課題である。

・２学年　箏の学習に際して、箏のセット、授業前の準備、授業内の片付け等、効率的に行う工夫が必要である。

(2)　指導目標

ア　平成 22 年度

・１学年　①音楽活動を楽しむ体験を通して、感動を味わう体験へとつなげていく。
②歌唱や器楽の基礎的な表現の技能を身に付ける。

・２学年　①音楽活動を楽しむ体験を通して、感動を味わう体験へとつなげていく。
②和楽器も含め様々な表現の技能を伸ばす。

・３学年　①音楽活動を楽しむ体験を通して、感動を味わう体験へとつなげていく。
②主体的な活動、創造的な表現の能力を高める。

イ　平成 23 年度

・１学年　①音楽活動を楽しむ体験を通して、感動を味わう体験へとつなげていく。
②歌唱や器楽の基礎的な表現の技能を身に付ける。

・２学年　①音楽活動を楽しむ体験を通して、感動を味わう体験へとつなげていく。
②和楽器も含め様々な表現の技能を伸ばす。

・３学年　①音楽活動を楽しむ体験を通して、感動を味わう体験へとつなげていく。
②主体的な活動、創造的な表現の能力を高める。

(3)　指導の重点

ア　平成 22 年度

・表現活動においては、歌唱に偏ることなく、器楽での表現活動として年間を通してリコーダーを扱う。

・３年間の表現活動や鑑賞活動で、和楽器、我が国及び世界の民謡、郷土の伝統音楽及び世界の諸民族の音楽を取り扱う。

・音楽を表現する手段としての言葉、伝える手段としての言語活動を重視して扱う。

イ　平成 23 年度
・表現活動においては、歌唱に偏ることなく、器楽での表現活動として年間を通してリコーダーを扱い、継続的な活動ができるように工夫する。
・３年間の表現活動や鑑賞活動で、和楽器、我が国及び世界の民謡、郷土の伝統音楽及び世界の諸民族の音楽を取り扱う。
・音楽を表現する手段としての言葉、伝える手段としての言語活動を重視して扱う。

(4)　授業改善に向けての具体的な取り組み
ア　平成 22 年度
・１学年　①歌唱、アルトリコーダーの継続的な活動
　　②和太鼓のリズム
　　③鑑賞における言語表現の重視
・２学年　①歌唱、アルトリコーダーの継続的な活動
　　②箏の演奏
　　③鑑賞における言語表現の重視
・３学年　①歌唱、アルトリコーダーの継続的な活動
　　②我が国の伝統的な歌唱
　　③鑑賞における言語表現の重視

イ　平成 23 年度
・１学年　①歌唱、アルトリコーダーの継続的な活動
　　②和太鼓のリズム
　　③鑑賞における言語表現の重視
・２学年　①歌唱、アルトリコーダーの継続的な活動
　　②箏の演奏
　　③鑑賞における言語表現の重視
・３学年　①歌唱、アルトリコーダーの継続的な活動
　　②我が国の伝統的な歌唱
　　③鑑賞における言語表現の重視

(5)　平成 22 年度　授業評価から授業改善へ
ア　前年度の授業評価の結果からの課題
　昨年度のアンケート結果では、「授業の到達目標ははっきりしていましたか」の項目の「よくできている」の割合が他に比べて低かった。教材の学習ポイントを明確に伝え、到達目標の受け止め方の意識を高める工夫が課題となった。
　また、「発言や質問を受け止めてくれましたか」の項目は、教科の性質上、発言や質問をする機会は極めて少ないので、「よくできている」の割合が高くならないが、この質問については、今後は、独自の解釈をつけて行うよう工夫する。

イ　今年度の授業評価の結果分析と課題
　昨年度、「あてはまる」の割合が比較的低かった「授業の到達目標」の項目や、授業形態の関係で例年比

較的低くなる「発言や質問」の項目を含め、全体的には、ほとんどの項目で「あてはまる」の割合がわずかではあるが、上がっている。

しかし、楽しい活動だけでなく、継続した様々な学習で同じ意識をもって到達目標を受け止められるようにしていくことが課題である。

ウ　授業改善の手だて

・よく使用する音階に合わせたアルトリコーダーの運指表を、五線黒板から手作りの模造紙とマグネットシートに代えたところ、見やすく手も汚れず効果があったので他の場面でも応用する。
・小物のリズム楽器について、種類と数をある程度そろえられたので、それをアンサンブル活動に活用しより多くの生徒にリコーダー以外の楽器に触れさせる機会をつくる。
・教科書に載っている教材を使用する際、目的に合わせて使いやすい形に変えたり、楽譜ではなく単純な構成図に代えて使用したりするなど、読譜の苦手な生徒でも達成感を味わえるような工夫をする。
・クラス全体で行う合唱や器楽活動のほかに、少人数で行うアンサンブル活動を取り入れることにより、グループ内での話し合いの機会や、一人一人の発言の機会をつくる。

(6)　平成 23 年度　授業評価から授業改善へ

ア　前年度の授業評価の結果からの課題

全体的には、年々少しずつ、「あてはまる」の割合が上がってきていたが、その中でも、例年、「あてはまる」の割合が比較的低いものに、「授業の到達目標」と「発言や質問」の項目があった。どちらも、昨年度はだいぶ割合が上がってきたが、「授業の到達目標」については、今後もより具体的で分かりやすい課題を提示していくのがよいと思う。「発言や質問」については、教科の特性上その機会は極めて少ないことから、なんらかの説明を加えていくことが必要だと思われる。

イ　今年度の授業評価の結果分析と課題

全体的には、質問項目の答えに「あてはまる」の割合が増えているが、特に、「資料や教材等の効果的な使用」や「友達と相談」の項目は、数をそろえられた小物楽器を使ったアンサンブルの効果と思われる。生徒も比較的、楽しんで活動できているので、今後も活用していきたい。

しかし、「授業の充実」に関しては、「あてはまる」と「ややあてはまる」の割合を合わせれば、昨年度と同じであるが、「あてはまる」だけをみると、やや割合が下がっている。これは、意欲のもてない生徒の雰囲気が表にでていたクラスの表れかと思われる。少ない授業の中でのアンケート結果であった。今後、少しでも意欲的な雰囲気に変われるよう努力していきたい。

ウ　授業改善の手だて

・模造紙とマグネットシートを使った五線紙とアルトリコーダーの運指表は、見やすく使いやすいので、今後もさらに利用をしていきたい。また、同じものを使用した歌詞と表現上の記号などの組み合わせも効果がある。
・小物楽器の種類と数をある程度、そろえたので、アンサンブル活動に大いに活用できている。さらに、楽器の種類を増やしていくことができるとより充実した活動ができるようになる。
・鑑賞にあてる時間が十分とれないが、表現活動を生徒同士が聴くことで、そこから感じ合ったり、分かり合ったりすることがあるので、それを言葉で表現する機会をつくる。

(7)　平成 22 年度　研究の成果と課題

ア　「授業評価」について

・１学年　①アルトリコーダーの導入にあたり、早めにパーフェクトテストを実施したが、生徒数が多いこともあり、テストを短く設定し、効率よく進めることで短時間で行うことができた。また、短い課題なので、生徒は進んで練習をし、集中して受けることができた。

②和太鼓のリズムについては、楽器は締太鼓一つと古いスネアドラムを利用し、ばちのみをそろえての和太鼓のリズムアンサンブルを行ったが、雰囲気はつかむことができた。また、その中で使うリズムの一部に創作活動も取り入れた。

③歌唱活動については、全体的にはていねいにやさしく歌う傾向がある。クラスによっては、やや迫力がなく物足りなさがあるが、発声練習の方法や並び方などの工夫をすることで少しずつ改善してきている。

・２学年　①器楽活動については、アルトリコーダーの他に、ラテン楽器を加えたラテン音楽のアンサンブルを行うことで、リコーダーの苦手な生徒も意欲的に参加でき、楽譜の代わりに単純な構成図を使うことで読譜の苦手な生徒でも達成感を味わえる活動を行うことができた。

②箏を使っての活動は、二人に１面分の箏を設置したままにできる教室を確保したことで準備や片付けの手間が減り、授業の進度によって毎朝立てる柱の数を工夫することで授業時間内の箏の練習に関わる時間をより多く確保できた。

③歌唱活動については、より音量の出る新しいＣＤデッキを使って効率のよいパート練習ができ、リーダーを中心に練習をさせることができた。

・３学年　①器楽活動については、アルトリコーダー以外に、小物楽器を使ったリズムアンサンブルを行うことで、リコーダーの苦手な生徒も意欲的に参加できるアンサンブル活動を行うことができた。

②我が国の伝統的な歌唱については、イタリアのカンツォーネなどと共に、歌舞伎で使われる三味線音楽を鑑賞教材として扱い、いろいろな発声の違いを耳から学習させることができた。

③歌唱活動については、ＣＤデッキや鍵盤楽器を使ってのパート練習にも慣れ、リーダーを中心に練習をさせることができた。

イ　今後の課題

・１学年　①歌唱活動の全体的な傾向としての、やや迫力に欠ける面を、日常から脱するために、のびのびと歌えるよう、指導の工夫が必要である。

・２学年　①持ち物は、普段はロッカーに入れてあるので忘れることはない。その反面、長期の休み明けには、忘れる者が増える傾向がある。休み前の指導と共に、休み明けに忘れたら、翌日持ってくるように指導し意識をもたせる。

②男子の一部に、１オクターブ下の高さで歌う者があり、授業内でも気付いた時にいろいろな方法で直そうと試みるがまだ直せない。しっかり声を出していることを認めつつ、教師が出し方をアドバイスしたり、近くの男子生徒に声を出させたりすることを根気よく続ける。

・３学年　①年間の後半時期には、授業時間が少なくなりそのほとんどが歌唱活動中心になるので、その他の活動をする時間を確保する。